

印西市の認知症施策および令和6年度事業について

【基本的な考え方】

令和5年6月に公布された認知症基本法、および第9期印西市高齢者福祉計画の基本理念に基づき、当事者の意思の尊重、認知症に対する理解の促進、あらゆる分野で参画する機会の確保が実現されることを目的として各事業に取り組んでいく。また、認知症とともに生きる、共生社会の実現を目指し、認知症に対する正しい知識の普及と認知症支援に対する理解の促進を重点目標とする。

【印西市の認知症に対する事業】

①認知症ケアパスの作成

認知症の状態に応じたサービス利用の流れを示したケアパスを作成する。

令和5年度1200部作成。相談時に使用するほか、イベント会場への設置、医療機関、居宅介護支援事業所、コミュニティーセンター等への配布を行った。

<令和6年度>

認知症地域支援推進員や認知症コーディネーターと協同し“本人用ケアパス”の試作品を作成。認知症当事者が安心でき、受診や相談につながる内容とした。地域包括支援センターにて試行的に利用し、その効果や内容について検討を行っていく。

②認知症カフェ

認知症に対する正しい理解を広め、認知症になっても安心して住み続けられる地域をつくることを目的として、当事者・家族・専門職・地域住民などが集える「認知症カフェ」を開催する。

指標	実績					
	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6.9月末 (2024)
参加人数(人) ※各年度末時点	407	0	317	736	764	432

<令和6年度>

地域包括支援センターに事業を委託し、市内各地で開催。当事者や介護者を含む様々な立場の人が気軽に交流することで、認知症に対する理解を深めるとともに、当事者や家族の思いや希望を引き出す場となるように事業内容を工夫している。多くの方に参加していただけるよう、ホームページ・広報紙・町内回覧などで周知を行っている。

③人材育成

認知症地域支援推進員・認知症コーディネーターと認知症施策についての意見交換を行い、必要な事業や現状の事業について見直す点などを明らかにする。また、相談支援の現場でとらえた当事者や家族の意見から、必要と思われる事業を検討し、その実現に向けて活動する。

<令和6年度>

令和4年度より、意見交換から出された意見が速やかに実現されるよう、以下の3つのチームに分けて活動している。

- A:「知る」⇒ケアパス・周知啓発・イベント等の検討
- B:「育てる」⇒認サポ・チームオレンジ・本人参加・家族会等の検討
- C:「つながる」⇒カフェ・他機関連携・初期集中支援等の検討

④認知症サポーター養成

認知症を正しく知り、やさしく見守ることができる「認知症サポーター」を養成する。

令和5年度は市内小学校16校(計1,124名養成)で開催したほか、個人でも参加できる一般市民向けの講座では46名が受講した。

指標	実績					
	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6.9月末 (2024)
認知症サポーター養成 (人)※各年度末時点	1,276	107	1,033	1,565	1,316	290

<令和6年度>

引き続き、小学校での講座を実施していく。

9/5 に市民向けの講座を開催し、36名の参加があった。レビー小体型認知症の当事者にも登壇いただき、本人からのメッセージをお話いただいた。

9/5 市民向けの認知症サポーター養成講座の様子



⑤初期集中支援チームの設置

認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築を目的として活動する、認知症初期集中支援チームを日本医科大学千葉北総病院に委託して実施。認知症の方を支える支援体制づくりの一助として活用するとともに、共に支援を行う関係者の認知症支援のスキル向上に資するものとなっている。多職種連携交流会で、認知症疾患医療センターや初期集中支援チームについて紹介、介護事業所をはじめとする多機関にその役割や利用方法を周知した。

指標	実績				
	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
対応実件数(件) ※各年度末時点	2	10	9	4	3

<令和6年度>

引き続き、多職種連携交流会などにて初期集中支援チームの役割や利用方法を周知していく。また、家族や介護関係者からの相談を受ける件数についても初期集中支援の実績として把握できるよう、報告の流れを修正した。

⑥認知症周知啓発事業

認知症に対する正しい理解を深めるために、講座の開催や広報紙・ホームページ等、様々な方法で認知症についての正しい知識と理解を広めていく。令和5年11月に、はじめての試みとして「認知症メモリーウォークinいんざい 2023」を開催。37名で行進を行ったところ、興味をもって話しかけてくださる方もいた。

指標	実績					
	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6.9月末 (2024)
出前講座参加者数 (人)※各年度末時点	19	24	27	38	43	30

<令和6年度>

広報紙・ホームページ等に認知症についての記事を掲載するほか、出前講座の実施で認知症についての周知を図る。啓発物の作成・配布を含め、様々な方法で認知症についての正しい理解を広めていく。9月に啓発用のティッシュを作成したほか、市内書店や図書館での認知症関連図書コーナーの依頼を行った。イオンのデジタルサイネージや市役所市民課窓口のモニターを活用した周知を行った。認知症メモリーウォークは11月10日に、牧の原モア～BIGHOPIにて開催予定。

TSUTAYA BIGHOP 店様での様子



市内図書館での様子



昨年のメモリーウォークの様子



10/5 世界アルツハイマーデー

10/5(土)印西市文化ホールにて、認知症疾患医療センター主催で行われた「世界アルツハイマーデーイベント」を後援。来場された方には、クラフトコーナーやカフェコーナー、VR体験コーナーなどを通して、認知症への理解を深めていただいた。

【午前講演参加者】 参加者 57名



・千葉オレンジ大使トークセッション



・日本医科大学音楽部
Midnight Sounds Jazz Orchestra

【午後講演参加者】 参加者 61名

- ・認知症があってもなくても住みよいまちシンポジウム
- 日本医科大学千葉北総病院 山崎峰雄先生
- 福祉楽団 飯田大輔先生
- 日本医科大学千葉北総病院 下田健吾先生
- 東京都健康長寿医療センター研究所 井藤佳恵先生
- ・シンポジスト討論会



【クラフトコーナー】 参加者 8名



【オレンジカフェ】 参加者 38名



【VR 体験会】 参加者 20名

【物忘れプログラム】 参加者 12名

